

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ9.6ポイント高く、都平均と比べると6ポイント高い。学習指導要領の内容ごとに見ると、全ての項目で平均を上回っている。その中で、「書くこと」に関しては、都平均を2.9ポイント上回る結果に留まっている。

課題

「書くこと」のうち、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」設問に関しては、11.9%の児童が無記入だった。授業でも「書くこと」に苦手意識をもっている児童が多いことを感じている。何を書いていいか分からない、書き方が分からないなど、手が止まってしまう児童がいる。

学校で取り組む具体的な改善策

「書くこと」を重点的に指導していく。各単元において、初めにその単元の最終的な活動を明示し、学習活動の流れが分かりやすくなるようにする。また、全児童が意欲的に取り組めるように、ICT機器を活用したり、学習活動を工夫したりする。まずは、「書くこと」の苦手意識を取り除けるような指導を展開していく。

【算数】

状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ4.8ポイント高く、都平均と比べると1ポイント高い。学習指導要領の内容ごとに見ると、都平均と比べ、「図形」は6.7ポイント上回っているが、「数と計算」は1.1ポイント、「変化と関係」は0.5ポイント、「データの活用」は2.6ポイント下回っている。

課題

『1050×4』の正答率が91.8%、『14と21の最小公倍数』の正答率が75.3%と、基礎的な問題を誤答している児童がかなり多い。また、式や文章で考え方を表す問題(2題)では、無記入の児童がどちらも7.1%いた。選択式・短答式の問題では無記入の児童はあまり見られないことから、大きな解答欄を見ただけで諦めてしまっていると考えられる。

学校で取り組む具体的な改善策

火・木曜日の朝学習の時間や、3学期の学習内容である「算数の学習をしあげよう」で、小学校の総復習を行っていく。基礎的な語句の確認、基本的な公式、分数、小数の計算など、全範囲の復習を行う。基礎・基本的な問題を繰り返し解くことで定着を図り、理解を深めさせていく。また、友達と教え合ったり、デジタル機器を活用したりするなど、授業内容を工夫することで、児童が意欲的に学習できる環境を整えていく。

【理科】

状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ7.7ポイント高く、都平均と比べると6ポイント高い。学習指導要領の区分・領域で見ると、全ての項目で平均を上回り、バランスよく理解ができています。細部では、「B区分」の生命・地球を柱とする領域より、「A区分」のエネルギー、粒子を柱とする領域の方が正答率は低かった。

課題

「評価の観点」別にみると、「思考・判断・表現」は都平均より6.1ポイント高いが、「知識・技能」はより高めていく必要がある。「メスシリンダー」の名称や使い方、昆虫の体のつくり、光の性質など、基礎的な知識を問う問題で誤答が多かった。また、実験結果から自分の考えをもち、その内容を記述する問題では、国語や算数と同様に、無記入の児童が多く見られた。

学校で取り組む具体的な改善策

問題解決の学習においては、生活体験や既習の内容と結び付けながら予想や仮説を立てさせて、主体的に観察・実験に取り組ませることで、理解を深めさせる。

また、結果からどのようなことがわかるかを考察し、結論を導き出したり、新たな課題を見いだしたりする際に、話し合いを充実させ、対話的な学びを促すようにする。また、観察・実験の際には、基本的な技能についても丁寧に確認しながら取り組ませるようにする。

【質問紙】

状況の分析

自己肯定感が高く、95.3%の児童が「よいところを認めてくれる」と思っている。また、「将来の夢や目標を持っている」が80.9%、「人の役に立つ人間になりたいと思う」が97.6%と、将来に対して、前向きに考えている児童が多い。学習に対して肯定的な考えをもっており、各教科の「勉強を大切だと思っている」は90%を超えている。

課題

学習に対する意識は高いが、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の項目の数値が比較的低い。また、「今住んでいる地域の行事に参加する」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目も低い傾向にある。児童が主体的に物事に取り組む態度を育てていく必要がある。

学校等で取り組む具体的な改善策

自尊感情を高める指導を持続し、児童が自分の課題に向き合い、粘り強く挑戦し、振り返りを行い、次につなげていく習慣を身に付けさせる。また、引き続き、各教科の授業では、問題解決的な授業づくりを心がける。そして、問題に対する自分の考えをもち、友達と互いの考えを交流することで理解を深める「主体的・対話的で深い学び」を具現化できるよう指導改善を図り、学習内容を定着させられるようにする。